

# 令和3年度 学校経営の改革方針

令和3年 4月  
鈴鹿市立椿小学校

## I 教育目標

### 1 学校教育目標

自ら学び、力を合わせてやりぬく子どもの育成

### 2 目指す学校像

- (1) 確かな学力を身に付けた子どもを育む学校
- (2) 心身ともに健康でたくましい子どもを育む学校
- (3) 命と人権を大切にし、安心して楽しく学べる学校
- (4) 家庭や地域と連携・協働する学校

### 3 目指す子ども像

- (1) 進んで学習に取り組み、自己実現に向けて努力することができる子ども
- (2) 心身ともに健康で、課題を乗り越えようとする子ども
- (3) 思いやりの心を持ち、みんなと共に高まろうとする子ども
- (4) 地域に学び、地域と共に生きる子ども

鈴峰中学校区キャッチコピー

“ 地域とともにたくましくチャレンジする鈴峰の子 ”

### 4 学校経営方針

- (1) 確かな学力の育成のための指導方法の改善と指導力の向上
- (2) 心身ともに健やかな子どもの育成
- (3) 一人ひとりの自己有用感を高め、共に生きる力を育成する
- (4) 安全管理と安全教育の充実・徹底による安全・安心な学校の構築
- (5) 学校運営協議会の熟議を生かした学校運営、教育活動の充実、地域との連携による「地域とともにある学校」の創造

### 5 生徒指導方針

- (1) 生涯にわたり学び続ける基盤となる基本的な生活習慣、学習習慣の定着を目指し指導を行なう。
- (2) 児童理解を深めることによって、一人ひとりの悩みや課題を把握し、解決に向けて子どもに寄り添いながら指導にあたる。
- (3) 生命の尊重や善悪の判断、規範意識などについて理解させ、行動化を図る。
- (4) 縦割り班活動を中心にした異年齢交流を通じて、思いやりの心や社会性を培う。
- (5) 家庭や地域、関係団体との連携を強化し、地域ぐるみで生活指導の充実を図る。
- (6) 問題行動の発生時には、教職員が一丸となってその解決に取り組む。
- (7) 不登校を生まない学校づくりを行う。

## Ⅱ 現状と課題

### 1 子どもの実態

児童は、全体的にみて、穏やかで素直である。全学年が単学級でありクラス替えがなく転出入も少ないため、子ども同士の関係は比較的安定しており、家庭的な雰囲気であるといえる。しかし、いっぽうで、集団の中で人間関係が固定化され、一人ひとりの子どもが自分の思いを十分表現することができなかつたり、周りの目を気にしたりして個性を出し切れないこともある。そのため、教員が集団におけるそれぞれの子どもの立場や状況をしっかり把握し、子ども達が自分の思いや考えを表現でき、受け止めあえる仲間づくりを行っていく必要がある。

学習面では、与えられた課題には真剣に取り組むが、自主的・自発的な姿勢に課題がある。

### 2 保護者・地域の実態

同じ敷地内に三世代が同居する家庭が多く、昔からの慣習を重んじる傾向にある。地域の人や保護者同士の連帯感が強く、学校教育への期待感や関心が高い。学校の教育活動へ貢献することが楽しみでもあり、理解もあり協力的である。地理的に放課後の習い事や通塾は遠方への送迎を必要とするため、身近である学校の指導・支援への期待が高い。

### 3 確かな学力の定着と指導の充実

#### (1) 自ら学ぶ力を育成するための授業改善・授業研究

##### ① 昨年度みえスタディチェックの結果より

(平均正答率%)

4年生	国語	64.5	(三重県 56.3)	△8.2
	算数	60.0	(三重県 51.4)	△8.6
	理科	59.4	(三重県 58.4)	△1.0
5年生	国語	54.5	(三重県 45.6)	△8.9
	算数	48.9	(三重県 51.1)	▼2.2
	理科	52.3	(三重県 49.1)	△3.2

- ・みえスタディチェックの結果の分析と授業改善の方向性を明らかにするための研修を実施した。思考力が問われる問題に課題がある。

##### ② 言語能力・活用力の向上の取組

###### ○ 国語科における基礎基本の定着

- ・書く力の育成のために絵日記や作文等継続して取り組んだ。
- ・漢字指導については、チャレンジタイム等により定着を深めた。
- ・音読は家庭学習のひとつと位置づけ、家庭と連携を図り実施した。

###### ○ 読書活動について

- ・図書巡回指導員の活用としてブックトークを行った。今後は国語学習との連携や読み聞かせ等も依頼したい。
- ・「読書が好き」な児童は72.4%であったことから、家庭での読書活動も含めて、さらなる読書の楽しさをつたえる活動を推進していくことが必要である。

##### ③ 基礎基本の定着の取組

- ・「椿タイム」は2回実施した。地域の学習ボランティアの支援を受けて算数の基礎基本問題に挑戦させた。学習内容の定着には有効であった。
- ・「家庭学習の取組」週間を年間2回実施し、目標学習時間の達成は平均で81.4%であったが、7月の保護者アンケートで「家庭学習の習慣がついてきたか」は70.5%であった。継続した具体的な改善の手立てが必要である。

##### ④ 授業改善と指導力向上の取組

- ・授業研究会を予定通り実施した。
- ・「学校の授業はよくわかっている」児童は89.7%で、前年度より2.9%上回った。

- ・プログラミング教育についての研修を実施した。ICT サポートの活用をさらに充実させる。
  - ・学校運営協議会委員に授業公開し、保護者・地域の視点からの意見をいただき、改善の一助とした。
- (2) コミュニケーション活動の充実
- ・全ての学年で外国語（英語）を実施し、コミュニケーション能力の素地を養った。「英語活動は楽しい」と感じる生徒は93.1%で、前年度より6.3%増加した。また、保護者満足度も93.9%で前年度より3%増であった。
- (3) キャリア教育・地域学習
- ・コロナ渦の中で制限はあったが、すずか夢工房や地域ゲストティーチャーによる授業を9回実施した。また、地域の人々を師とした学びの機会を設けた。
  - ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童は98.3%であったが、「将来の夢や希望がある」と答えた児童は87.9%であった。事態が収束すれば、さらに活用を図り、出会い学習を通して児童の視野を広げていきたい。
- (4) 多文化共生教育の推進
- ・椿ワールドではEEタイムや生活科の時間を使ったり、教科書の話を読み訳したりして、効果的に英語学習や活動の成果の発表ができ、児童の表現力も伸びた。行事精選から発表方法は検討の必要がある。
- (5) 特別支援教育の推進
- ・月1回の校内支援会議で情報共有や支援法の検討ができ、支援についての教員の力量が高まった。
  - ・特別支援コーディネーターを中心とした校内体制の充実により、学校全体で支援をすることの意識が高まった。
  - ・ユニバーサルデザインの視点で、通常学級に在籍する支援の必要な児童への効果的な支援ができた。

## 4 健やかな体の育成

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣の定着
- ・「家庭学習の手引き」を活用し、学習、読書、家庭でのルールについて、学校と家庭が共通理解を図り、基本的な生活習慣の定着と連携させた指導を行なった。「睡眠時間をしっかりととれている」児童は88.0%、「朝ごはんをほぼ毎日食べている」児童は94.0%であった。
  - ・「みえの学力向上推進県民運動」の取組を年2回実施し、児童への指導を行うとともに、結果を学校だよりで発信することで保護者への啓発を行った。
- (2) 体力・運動能力の向上の取組
- ・授業の初めの5分間トレーニングを行った。「ボール投げ」など本校児童についての弱みについて伸びがみられた。今後、全国調査の対象となる5年生の新体力測定の国の目標値 男子55、女子56 を上回ることを目標とした。

## 5 豊かな心の育成

- (1) つながりを育てる学級づくり
- ・人権研修会において視点児童を中心に据えた学級指導の在り方について情報交換を行い、個に応じた指導に取り組んだ。
  - ・学期ごとにいじめ調査を実施した。重大案件はないが、軽微なものも見逃さ

ず対応できた。「学校は楽しい」と回答した児童は94.8%、「いじめはどんなことがあってもいけない」と思う児童は94.8%であった。さらなる心を育てていく手立てが必要である。

- ・12月現在の不登校は0名であった。気にかかる児童については担任、養護教諭、管理職と連携して情報共有を行った。

## (2) 実践力を高める道徳教育の推進

- ・児童に即した内容の精選や実践力を身に付けた児童の育成に心がけて指導を進めた。「学校の決まりを守っている」児童は94.0%、「あいさつをする」児童は92.2%であった。また、「自分にはよいところがある」と感じる児童は81.0%であり、自己肯定感を高める手立ても必要である。

## (3) 縦割り班活動を推進し、人間関係や社会性を育成するための取組

- ・異年齢との交流「わくわくタイム」は、低学年には安心感を、高学年には自覚とリーダーシップを発揮する場となっている。「わくわくタイムは楽しい」と感じる児童は95.6%である。継続していきたいが、学校行事との兼ね合いで時期や回数を考慮する必要がある。
- ・縦割り班は、運動会・集会などでも活用しており、子ども達の人間関係や社会性を広げる効果が大きかった。

## (5) 小中連携

- ・人権フォーラムに6年生の代表者4名が参加した。鈴峰中学校区小中の代表と「なかまづくり」をテーマに意見の交換を行った。
- ・小中連携の取組として、鈴峰中学校の英語教諭に毎週6年生にT.T.で指導する機会があり、中学校の学習への接続を円滑に行うことができた。

## 6 安全安心な学校づくり

### (1) 登下校の安全の確保

- ・校長による集合場所巡回を継続して行った。
- ・地区児童会において、安全確保に向けた情報発信と指導を行った。
- ・危険な交差点で毎朝ボランティアによる見守りも行われている。
- ・PTAによる危険箇所点検や「子どもを守る家」の確認をおこない、今後の取組について依頼をした。
- ・悪天候時に、鈴峰中学校区の幼小中と連携して対処した。

### (2) 防犯教育の充実

- ・実際の大雨時にメール配信システムを活用した児童引き渡しを実施し、不審者等で急な対応をしなければならない事案に備えた。

### (3) 危機管理マニュアルの見直しと校内体制の整備

- ・危機管理マニュアルの見直しを実施した。
- ・「椿っ子見守り隊」への登録の呼びかけを地域や保護者に行った。自主的に見守りを続けてくれる方に登録をお願いした。

## 7 地域とともにある学校づくり

### (1) 鈴鹿型コミュニティスクールの推進

- ・学校運営協議会を6回実施した。
- ・学校運営協議会委員に対する公開授業を実施した。
- ・最終回において、学校関係者評価を実施した。

### (2) 保護者、地域住民との連携

- ・学校だよりを25号発行し、ホームページを27回更新する等により、学校

の取組を積極的に発信することができた。

- ・学校満足度調査の結果を学校だよりや学校ホームページで保護者や地域に提供した。「学校と地域・保護者との連携はうまくいっている」と感じる保護者は100%であった。

### (3) 学習ボランティアの活用

- ・今年度も新たな学習ボランティアに参加いただいたが、総人数の増加にはつながりきれていない。
- ・クラブ活動、生活科、総合的な学習の時間、家庭科の実習の時間等に、支援や安全確保でボランティアに協力していただいた。
- ・算数科の学習（椿タイム）時の採点サポートを受けた。そのことにより、児童の理解が進み、自信を持てるようになった児童が増加した。

### (4) 学校評価の推進

- ・年間2回、児童アンケートと保護者アンケートを実施し、分析結果は学校だよりで公開した。
- ・学校自己評価及び学校関係者評価は、ホームページで公開した。

## 8 教職員の総勤務時間の縮減

### (1) 職員会議の時間短縮

- ・提案事項の事前配付と提案時間明記を行い、時間短縮を図ることができた。
- ・会議時間の短縮、働き方改革の意識は高まってきたが、実質的な仕事量は変わっていない。

### (2) 校務の取り組み方の見直しと教職員の意識改革

- ・計画的で効率的な業務の推進について共通理解を図った。
- ・行事の精選、校務分掌の見直しなど、さらに業務内容の見直しが必要である。  
1か月一人当たりの過重労働時間（4～2月）  
令和元年度 19.8 時間 ⇒ 令和2年度 18.0 時間

## Ⅲ 中長期的重点目標

### 1 確かな学力の定着と指導の充実

確かな学力を保障するため、授業改善のための方策を検討し、指導力の向上を目指す。

### 2 健やかな体の育成

全ての活動の基盤となる健康な体を育成する。

### 3 豊かな心の育成

自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、共に生きる力を育成する。

### 4 安全安心な学校づくり

安全・安心な学校をつくるため、安全管理と安全教育の充実・徹底を図る。

### 5 地域とともにある学校づくり

家庭・地域と連携して学校運営の改善と教育活動の充実を図り、「地域とともにある学校」を目指す。

## Ⅳ 本年度の行動計画

### 1 確かな学力の定着と指導の充実

#### (1) 自ら学ぶ力を育成するための授業改善・授業研究

- ① 全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの活用
  - ・ 全国比（県比）100 を目標として学力の向上を図る。
  - ・ 調査結果を分析し、課題克服に向けた授業改善を図る。
  - ・ 「わかる・できる育成カリキュラム」「学 Viva! セット」の活用。
- ② 言語能力・活用力の向上
  - ・ 内容理解に重きを置いた音読指導を実践する。
  - ・ 既習漢字の習熟を図った漢字学習を実践する。
  - ・ 国語辞典を低学年から活用する。
  - ・ 読書活動を推進し、読解力・表現力の向上を図る。
  - ・ 思考力・判断力を培う書く活動を授業や学習に取り入れる。
- ③ 基礎・基本の定着
  - ・ いったん学んだことが日常生活とつなげられるような内容を指導の中に入れてこいでいく。
  - ・ 授業初めの5分間「読み算」を全校で取り組む。
  - ・ 補充学習としての「椿タイム」の効果的な形態・手法を検討する。
  - ・ 長期休業中の補充学習を実施する。
  - ・ 家庭学習の定着にむけた指導および保護者への啓発に取り組む。（児童の目標学習時間達成率 85%）
- ④ 授業改善と指導力の向上
  - ・ 将来を見据えたアクティブラーニング型授業への改善にむけた校内研修の充実を図る。
  - ・ 自主的な校外研修への参加を促進する。
  - ・ 授業のめあての明示と振り返り活動を図る。
  - ・ 外部講師を招聘した授業研究を計画的に実施する。
  - ・ 授業に対する児童満足度90%以上を目指す。
- ⑤ 小学校英語教育
  - ・ 新学習指導要領に対応した小学校における英語教育を推進する。

#### (2) コミュニケーション能力の育成

- ・ 全学年で英語活動を実施する。
- ・ 英語活動の児童満足度90%以上を目指す。
- ・ 思考力・判断力・表現力を育成するための取り組みを行う。
- ・ 他の小学校と交流し、積極的に関わろうとする態度の育成を図る。

#### (3) キャリア教育の推進

- ・ 「すずか夢工房」や「ゲストティーチャー」の招聘を全学年年間2回、計25回以上実施し、「生き方」や「考え方」を学ぶ機会とする。
- ・ 発達段階に応じ、地域と連携した事業を推進する。

#### (4) 多文化共生教育の推進

- ・ 社会見学時などを機会に、インタビュー活動等を通じて、外国籍の人々と積極的にコミュニケーションをとることができる児童を育成する。

#### (5) 特別支援教育の推進

- ・ 特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制のもと、月1回の校内支援会議の充実を図る校内体制の充実を図る。
- ・ すずかっ子支援ファイルを活用し、全教職員の理解をすすめ、具体的な支援

の方策を探るなど、支援内容を充実させる。

## 2 健やかな体の育成

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣の定着
  - ・「みえの学力向上県民運動」チェックシートを活用し、家庭学習、読書、家庭でのルールについて、学校と家庭が共通理解を図り、基本的な生活習慣の定着と連携させた指導を行なう。（年間2回実施）
  - ・自己点検活動（家庭学習の取組）を年間3回実施する。
- (2) 体力・運動能力の向上
  - ・体育の時間の最初5分間程度を、全校共通した取組を行う。
  - ・新体力テストを全学年で実施する。
  - ・マラソン大会を実施する。

## 3 豊かな心の育成

- (1) つながり育てる学級づくり
  - ・視点児童を中心に据えた学級経営を行う。
  - ・職員会議の情報交換等、様々な視点から学級づくりを検証する。
  - ・早期発見・早期対応に努め、「いじめ解決100%」を継続する。
  - ・「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」と考える児童の割合を100%とする。
  - ・不登校を出さない取組に向け、職員が共通意識を持って対応する。
  - ・連続した欠席が3日続いた場合、欠席理由に関わらず、確認する。
  - ・学校生活に対する児童満足度97%以上を目指す。
- (2) 実践力を高める道徳教育の推進
  - ・「考え、議論する道徳」となるよう、年間カリキュラムを見直しする。
  - ・教科「道徳」としての評価を的確に行う。
- (3) 縦割り班活動の推進と、人間関係や社会性の育成
  - ・計画的に「わくわくタイム」を実施し、事後指導の充実を図る。
  - ・「わくわくタイム」の満足度95%以上を目指す。
- (4) あいさつ運動の実施
  - ・月1回、児童会・地域・教職員によるあいさつ運動を実施する。
- (5) 幼小中の連携
  - ・鈴峰中学校区ラジオ体操の会・人権フォーラムを実施する。
  - ・夏季休業中に生徒指導・人権についての教員研修会をもつ。

## 4 安全安心な学校づくり

- (1) 登下校の安全の確保
  - ・定期的な通学路点検と、職員・保護者・地域によるパトロールを実施する。
  - ・地区児童会において、安全確保に向けた情報発信と指導を行う。
  - ・交通安全教室（自転車の乗り方指導）を全校で実施する。
  - ・地区の危険箇所や子どもを守る家の確認を親子で行う。
  - ・「子どもを守る家」の更新、依頼をPTAと協働して実施する。
  - ・鈴峰中学校区の小中と連携する。
- (2) 防犯教育の充実
  - ・「不審者」「連れ去り」等の防犯訓練を実施する。
  - ・メール配信等による「不審者情報」の的確な伝達を行う。

- (3) 危機管理マニュアルの見直しと校内体制の整備
- ・ 危機管理マニュアルを定期的に見直す。(感染症対策の追加)
  - ・ 教職員の危機管理意識の向上を図る。
  - ・ 校区安全安心マップを定期的に見直す。
  - ・ メール配信システムを活用した緊急引き渡し訓練を実施する。

## 5 地域とともにある学校づくり

- (1) 鈴鹿型コミュニティスクールの推進
- ・ 学校運営協議会を年6回開催する。
  - ・ 椿小学校としての強みや弱みを検討するとともに、地域・保護者との協働による学校運営を行う。
- (2) 保護者や地域との連携強化
- ・ 教育活動への保護者・地域住民の参画を推進する。(各種ボランティア等)
  - ・ 情報提供を充実させる。(学校だより月2回、ホームページ24回更新等)
- (3) 学習ボランティアの活用
- ・ 読み聞かせボランティア、学習支援ボランティアの増員を図る。
  - ・ 体験学習ボランティアの支援により、授業(ミシン、裁縫、調理等)、クラブ、体育行事等の充実を図る。
- (4) 学校評価の推進
- ・ 児童、保護者の教育活動に対する満足度調査を実施し、結果を公表する。
  - ・ 学校自己評価と学校関係者評価を実施し、結果を公表する。

## 6 教職員の総勤務時間の縮減

- (1) 職員会議の時間短縮
- ・ 各項目の検討時間を事項書に明記し、時間短縮を図る。
  - ・ 提案文書の事前配付と、参加者の内容把握を前提とした議事進行を行う。
- (2) 校務の取り組み方の見直しと教職員の意識改革
- ・ 教職員一人ひとりの強みを生かせる校務分掌の割り振りを行う。
  - ・ 行事や教育活動を重点化・焦点化し、必要に応じてマニュアル化する。
  - ・ 校務を精選するとともに校務への取り組み方を見直す。
  - ・ C4th 出退勤システムを活用した教職員自身による取組を行う。
  - ・ 月45時間を超える時間外職員 0人とする。
  - ・ 1人当たりの月平均時間外労働 20時間以下とする。
  - ・ 年間360時間を超える時間外職員 0人とする。
  - ・ 1人当たりの年間休暇日数 20日以上とする。
  - ・ 定時退校日月2回設定。その日に退校できる職員の割合90%以上とする。
  - ・ 放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合70%以上とする。